

# フィンランド語：重箱の隅⑩ 存在文

「フィンランド語との対話—吉田欣吾」

<https://yoshidakingo.com/>



# 参考資料

- ① Hakulinen, Auli, Maria Vilkuna, Riitta Korhonen, Vesa Koivisto, Tarja Riitta Heinonen ja Irja Alho. 2005. *Iso suomen kielioppi*. Suomalaisen kirjallisuuden seura. 847-862, 879-880, 937-938, 1227-1128. (*Ison suomen kieliopin verkkoversio*. [<https://scripta.kotus.fi/visk/etusivu.php>])
- ② Ikola, Osmo. ”Partitiivi subjektin, objektin ja predikatiivin sijana”. *Kielikello*. [<https://kielikello.fi/partitiivi-subjektin-objektin-ja-predikatiivin-sijana/>]



# 最初に確認

- 「分類」とはあくまでも「分類」。
- 実際には明確な境界線があるわけではない。
- とくに「存在文」「所有文」「現象文」「状況文」は多くの特徴を共有している。
- さらに「結果文」も「存在文」とは共通の構造をもっている。
- 物事を理解するうえで「分類」はとても重要、しかし絶対的なものではない。



# 多用される文のタイプと特別な文のタイプ

文の大きな分類	主題の位置 (文頭)	主語の形
多用される文 のタイプ	主語	主格
特別な文の タイプ	主語以外～ $\emptyset$	主格～分格 ／属格／ $\emptyset$



# 「重箱の隅㊦」より

- 存在文の典型的な形

Huoneessa on pöytä.

Pöydällä ei ole lamppua.

[場所] + [on/ei ole] + [主語]。

- 所有文は存在文の下位範疇

Minulla on koira.

Meillä ei ole maitoa.



# 存在文の中心的な特徴①～③

	典型的な存在文 (Prototyyppinen)	応用的な存在文 (Muunnelma)
	動詞は olla :	他の自動詞 :
①	<b>Tässä on virheitä.</b>	<b>Tähän on pujahtanut virheitä.</b>
	ここに (いくつかの) 誤りがある	ここに (いくつかの) 誤りが潜り込んでいる
	主題の位置に場所を表す表現 :	主題の位置に主語 :
②	<b>Tässä on virheitä.</b>	<b>Virheitä on muuallakin.</b>
	ここに (いくつかの) 誤りがある	誤りは他の箇所にもある
	分けられる名詞は分格 :	分けられる名詞が主格 :
③	<b>Tässä on virheitä.</b>	<b>Tässä on loput virheet.</b>
	ここに (いくつかの) 誤りがある	ここに残りの誤りがある



# 存在文の中心的な特徴④～⑥

	典型的な存在文 (Prototyyppinen)	応用的な存在文 (Muunnelma)
	否定文では分格：	否定文で主格：
④	<b>Kopissa ei ole <i>kania</i>.</b>	<b>Kopissa ei ole <i>kani</i> vaan marsu.</b>
	小屋にはウサギはいない	小屋にはウサギではなくテンジクネズミがいる
	動詞は一致しない：	動詞が一致：
⑤	<b>Tässä <i>on</i> sukat.</b>	<b>Tässä <i>ovat</i> sukat.</b>
	ここに靴下がある	ここに靴下がある
	主語は事前に言及されていない (未知)：	主語が事前に言及されている (既知)：
⑥	<b>Tässä <i>on virheitä</i>.</b>	<b>Tässä <i>on niitäkin</i>.</b>
	ここに (いくつかの) 誤りがある	ここにはそれらもある



# 存在文の表す意味 (1)

## ●存在

Seinillä **on** korvat.

「壁には耳がある」

## ●どのようにして存在しているのか

Ulkona **leikkii** lapsia.

「外では子どもたちが遊んでいる」

## ●存在の開始

Naapuriin **syntyi** kaksoset.

「隣に双子が生まれた」



# 存在文の表す意味 (3)

## ●存在の終了

Uusia sanoja **syntyy**, vanhoja **katoaa**.

「新しい語が生まれ、古い語が消える」

## ●存在しないこと

Taskustani **on kadonnut** rahaa.

「私のポケットから金が消えた」

## ●他の状態へ移行して存在すること

Useita miehiä **haavoittui**.

「多くの男たちが負傷した」



## 存在文の表す意味 (2)

- 存在が確認されること

Pohjanmerestä **on löytynyt** öljyä.

「北海で石油が見つかっている」

- 存在について見聞きすること

Häntä **ei näy eikä kuulu**.

「彼女のことは見かけもしないし、耳にもしない」



# 存在文で使われる代表的な動詞

- elää 「生きる」, asua 「住む」, oleskella 「滞在する」  
sijaita 「位置する」, istua 「座っている」, seisoa 「立っている」  
tanssia 「踊っている」, leikkiä 「遊んでいる」
- syntyä 「生まれる」, kuolla 「死ぬ」, kasvaa 「成長する」  
sattua 「起こる」, tapahtua 「起こる」
- näkyä 「見える」, kuulua 「聞こえる」, löytyä 「みつかる」
- riittää 「足りる」, puuttua 「不足する」, loppua 「なくなる」
- kerääntyä 「集まる」, ilmestyä 「現れる」, tulla 「来る」  
mennä 「行く」, jäädä 「残る」



# 主語の位置／未知と既知

- 存在文の主語は動詞の後ろに置かれる／未知

Pöydällä on **ruoka**. 「テーブルの上に食事がある」

Pöydällä ei ole **ruokaa**. 「テーブルの上に食事は無い」



**Ruoka** on pöydällä. 「食事はテーブルの上にある」

**Ruoka** ei ole pöydällä. 「食事はテーブルの上にはない」



# 動詞の一致・不一致

- 存在文の動詞は主語が複数主格であっても単数

Täällä **on** kaupungin parhaat pitsat.

「ここでは街で最高のピザを出す」

Pöydällä **on** sakset. 「机上にはハサミがある」



Pöydällä **ovat** sakset. 「机上にはハサミがある」

lidalla **olivat** rukukset kädessä.

「lidaは手に手袋をはめていた」

# 存在文における主語性

- 主語の中立的な位置は**文頭**
- 主語の形は**主格か分格**



- 存在文・所有文では主語性が二つに分かれているといえる。

**Luodolla** on **lokki**. 「小島にはカモメがいる」

**Mummolla** on **kissoja**. 「おばあちゃんは猫を飼っている」

# 存在文に他動詞が現れる場合

- 存在文に自動詞ではなく他動詞が現れる場合

**Satoja sotilaita on menettänyt** henkensä.

「数百もの兵士が命を失った」

**Useita siviilihenkilöitä sai** surmansa.

「多くの民間人が死亡した」

- menettää henkensä / saada surmansa

= 自動詞 kuolla



# 今回出会ったフィンランド語らしい表現

●Kaviaaria on mustaa ja punaista.

「キャビアは黒いのと赤いのがある」

●Kirkkoja on täällä kaksi.

「教会はここには二つある」

(これらは「数量文」に含めるべきかもしれない)



# 次回以降の予告

- 「重箱の隅⑪」  
「所有文」について確認する。
- その後は「現象文」「状況文」「数量文」「結果文」「感情使役文」「属格で始まる文」について何回かに分けて整理する。

